

長崎港松が枝地区 旅客船ターミナル整備事業

事業評価に係るバックデータ

事業名	長崎港 松が枝地区 旅客船ターミナル整備事業
-----	------------------------

1. 事業概要

構成施設	岸壁(水深12m)、泊地(水深12m)、臨港道路、ふ頭用地	
事業期間	令和2年度～令和7年度	
事業費	136億円	

2. 費用

	単純合計	基準年における 現在価値(C)
事業費	123.4億円	108.0億円
管理運営費等	30.8億円	10.5億円
合計	154.2億円	118.5億円

長崎港 松が枝地区 旅客船ターミナル整備事業

	単年度便益	基準年における 現在価値(B)
①外航クルーズ船の入港による国際観光 純収入の増加便益	14.7億円	249.9億円
②残存価値	12.0億円	1.3億円
合計	—	251.3億円

4. 結果

費用便益比(B/C)	2.1
純現在価値(B-C)	133
経済的内部収益率(EIRR)	9.0%

5. 感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比
需要	クルーズ隻数:360隻	±10%	1.9～2.3
事業費	136億円	±10%	1.9～2.4
事業期間	6年	±10%	2.1～2.2

6. 費用便益分析の条件

分析対象期間	50年	社会的割引率	4%	基準年度	令和元年度
--------	-----	--------	----	------	-------

事業名	長崎港 松が枝地区 旅客船ターミナル整備事業
-----	------------------------

■事業費内訳

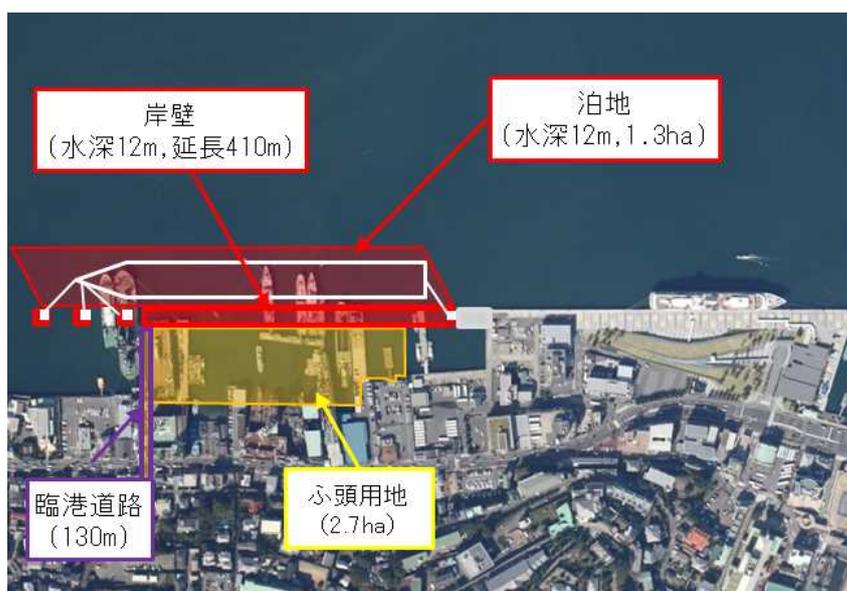
項目	単位	数量	金額(億円)	備考
工事費				
岸壁(水深12m)	式	1	82	
本體工、他一式	m	410	82	
泊地(水深12m)	式	1	10	
浚渫工	ha	1.3	10	
臨港道路	式	1	8	
舗装工、他一式	m	130.0	8	
埠頭用地	式	1	36	
埋立、舗装工	ha	2.7	36	
合計			136	

■管理運営費等

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
管理運営費	式	1	30.8	

※各施設の全体事業費の0.5%を毎年計上。

■概要図



便益計算

①国際観光純収入の増加

Without (整備なし)	既存施設(松が枝岸壁、常磐・出島岸壁、小ヶ倉岸壁)を利用
With (整備あり)	既存施設(松が枝岸壁、常磐・出島岸壁、小ヶ倉岸壁)及び松が枝地区旅客船ターミナルを利用

○便益計算

項目	With	Without	備考
クルーズ船寄港隻数 (隻/年) [海外他港シフト解消隻数] (隻/年)	360 [23]	293	新たにクルーズ船の受入が可能となる67回のうち、海外他港へシフトしてしまっていた23回分を便益対象とする。
1隻当たりの平均旅客数 (人/隻)	3,200		2018年平均乗客数で設定
1人当たり観光消費額(円/人)	20,000		港湾整備事業の費用対効果分析マニュアルに基づき設定
国際観光純収入(億円/年)	14.72		隻数×1隻当たりの平均旅客数×1人当たり観光消費額
国際観光純収入の増加額(億円/年)	14.72		